



千葉動力車

時の
問題

羽田—小沢政権！

朝鮮侵略と独裁政治、消費税増税へ暴進する

羽田・小沢政権打倒へ

永野（法相）暴言こそ 第二次連立政権の正体

羽田内閣に任命された永野法務大臣は、就任早々、毎日新聞でのインタビュー（四日付）で、アジア・太平洋侵略戦争について、「侵略戦争というのは間違い、植民地解放であった」と言いなし、一九三七年の南京大虐殺について、「デッチ上げだと思う」という言語道断の大暴言を吐いた。

永野暴言に対し、中国・朝鮮・アジア人民は激しい怒りをこめ、即刻弾劾に立ち上がっている。

永野法相のこの許しがたい暴言に対し、我々日本の労働者人民は、その責任にかけて弾劾・打倒に立ち上がらなければならない。

この暴言を「失言」とか「不適切な言葉」などということでは決して済ましてはならない。ましては辞任したからといって何ひとつ解決していないのだ。永野は、「侵略」と「南京大虐殺」が今、国際的困難をあげていることを百も承知のうえで、あえて挑発的に暴言を吐いたのである。永野発言は、「有事立法—戦時体制の確立」を叫ぶ羽田—小沢政権の体質・本質そのものである。

今起こっていることの本質は！

今起こっている事態—政界再編第二幕の特徴は、新生党小沢による血みどろの権力闘争が、新たに開始したということである。

つまり、小沢は社会党を使い捨てつつ、強力な超反動内閣の確立—一党独裁を目指し懸命に「攻めまくっている」。

自民党を分裂させ、一方社会党に対しては、社会党内部の親新生党勢力を抱え分断・揺さぶりをか

け、吸収しようというのである。その政治的目的は、「世界に生きる安全保障体制を」（小沢）であり、それは、「有事に備え国内法の改定（有事立法）」というものである。

その核心は、朝鮮出兵—アジア勢力圏づくりであり、そのための強力な政権づくり—一党独裁の確立にこそ、小沢—羽田政権の本質がある。

小沢独裁政権その凶暴さの根拠

「政界再編」を激しく突き動かしている要因は、日本（帝国主義）の深刻な危機である。日本支配階級は、この「国難」突破をかけた大胆な構想を持つ小沢を選択したのである。そこで目指しているの

は、朝鮮侵略戦争の出来る政治であり、国内体制である。

従って、そこには相当の無理と、対立激化、危機をはらんだものとならざるを得ない。だから小沢は、強引で暴力的な手法をとらざるを得ないのである。

我々は、小沢の凶暴なやり方の中に、彼の危機、あせりを見てとり、これと対決しうる体制の構築を急がなければならない。

小沢に使い捨てられた社会党！

社会党は、連立合意とそれに続く「改新」結成によって、ガタガタに揺さぶられ分裂・消滅の土壇場に立たされている。社会党は連合ともども小沢戦略に都合のいいように使われるだけ使われて捨てられ、今や自民党と連携することが唯一、「存在感」を示すという許しがたい惨状を呈している。

何が根本原因なのか！

社会党は「連立合意」のタガはめの中で、次々と戦争政策やアジア侵略政策に屈し、思想的・路線的に崩れてしまったところに致命的原因がある。まさに「一つの原則的屈伏が百歩の後退・屈伏につながる」である。このことを教訓として、羽田—小沢政権打倒、六



6日、ソウルで「妄言」と書かれた永野法相の人形を燃やして永野発言に抗議したAP

大阪15周年記念集会 熱く固く立ち上がった

